

起案罰紙

大正八年十一月二日起案

起案者
捺印

十一月三日發付

發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

(一) 軍務局長

副官

第一課長

局長

大臣

次官

參事官

副官

局長

局長

局長

電報

大正八年十一月三日

長官宛

大臣

十一月三日
午後四時十分發電

本府なる海軍工廠ニ於テ軍艦長門進水ニ付

局、部	官房	軍務	人事	艦政	機務	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房
官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房	官房

0705

日電付後、此方よりユル、
リ通降、
み及るに、此方より接通、
其筋ヨ

(終)

武藏第九號

大正八年十一月一日

侍從武官長内山小二郎

海軍大臣加藤友三郎殿



侍從武官 四龜孝輔

右呉海軍工廠へ被差遣候條其筋へ御達、
相成度此段申進候也

追テ本文ノ儀ハ未十一月九日同工廠ニ於テ軍
艦長門進水式舉行ニ付被差遣儀ニ
有之尚發着ハ當該武官ヨリ直接通
報可致候

官 内 省

(八六)

0707

紙 郵 案 起

大正八年十月二日起案
起案者 蔭印
十月二日發付
發付掛 蔭印

軍務局長

第一課長

副官

次官

參事官

局員

軍令部

次長

各班長

電報

大正八年十月三日

馬鑑長官

次友

十一月三日 發電濟

博恭王殿下は海軍工廠より來て付る者有

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	艦政	人事	軍務	官房	局部
五												十一	受月日
四												二	發月日
八													
三													
六													

0708

軍令部

紙 箋

海軍省副官

十月二日發付
發付掛
捺印

長
山梨

局員
田

分中

分中
山梨

山梨

次友

局、部	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	十月二													十月二
發月日														十月二

十一月三日
午後一時
分發電濟

廣くあきれたる、付、あきれたる

0708

軍令部

海軍省副官

大正八年十月二日

枝原

海軍省軍務局

分中

海軍省軍務局
海軍省副官
大正八年十月二日
奉送海軍省軍務局

0709

市邊定九通

十月九日午前五時五十八分号駈市着

同 午前十時長門倉在場、市吃場

同 日午後一時二十八分号駈市發市歸京、

鶴守村構内以外ハ市微行ノコト

(終)

供覽

軍務局

博恭王殿下 未ル九日吳海軍工廠工御差遣三付
御發着左通御豫定相成候條此段及御通知候

十月八日 午前八時三十分 東京驛御發

全 九日 午前五時五十分 吳驛御着

全 日 午前十時 長門命名式御臨場

全 日 午後一時三十分 吳驛御發

全 十日 午後一時三十分 品川驛御着

追テ鎮守府構内以外ハ御微行被為在

大正八年十一月一日

皇族附武官 木岡英男

海軍次官 板内曾次郎殿

伏見宮

8.11. 3
官局受領

0711

殿下御都合依
車御座席等
奉送御座席
右御座席相成
海軍省御座席
軍令部御座席

8.11. 8
宮内省

（中）

王殿下 未ル九日吳海軍工廠工御差遣ニ付
及著左通御豫定相成候條此段及御通知候

八月八日 午前八時三十分 東京驛御發

九日 午前五時五十分 吳驛御著

日 午前十時 長門命名式御臨場

日 午後一時三十分 吳驛御發

十日 午後一時三十分 品川驛御著

返戸鎮守府構内以外御微行被爲在

正八年十一月一日

皇族附武官 木岡英男

軍次官 板内曾次郎殿

伏見宮

0711

殿下御都合ニ依リ御出發ノ際國府津ニ御乗
車御歸京際ニ同駅ニ御降車可相成候ニ付
奉送迎ハ御辭退被成候
右御査置相成度 木岡皇族附武官
海軍省副官殿
軍令部副官殿

0712

紙 野 案 起

大正八年十一月一日起案
 起案者 捺印
 大正八年十一月三日發付
 發付掛 捺印
 發付後起 案者捺印

軍務局長

第一課長

大臣

副官

次官

參事官

小松

局員

小松

城

艦政局長

岡田

第二課長

山本

技術本部長

第四部長

山本

柳

柳

山本

局部	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技術	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領
發月	發月	發月	發月	發月	發月	發月	發月	發月	發月	發月	發月	發月	發月	發月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

大正八年十一月三日

次々

白王族附武々木岡桑男

本夕九日海軍工廠於軍艦長門進水付

號番

官房第三五號

海

軍

0713

博恭王殿下ヲ被差きたる趣宮内大臣ヨリ海軍大
臣ニ通達有之。茲ニ此ノ由郡会等ニ開シ此ノ
意あり。移リ様由計お成事
左申進ス

(終)

官房
五五
五五

大正八年十一月三日

次官

内務省長

各通

東宮及皇

一、(文)山、知、宮内大臣ヨリ海軍大臣ニ通達有之

左通達ス

明治印刷

0714

電報

大正八年十一月三

号 鈴 七 々

大正

(終)

十一月三日 早朝の時の金銀電報

(前同文) 差をいさぐち 勘定内人より 通達アリタリ 申
後 勘定等と 申すより 通達セシム

(終)

0715

明正印刷納

0716

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

供覽



軍務局

宮内大書房 宣發第五九六號

大正八年十月三十日

宮内大臣青波多野教直

海軍大臣加藤友三郎殿

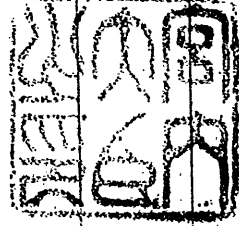
第... 卷

十月十日附友房茅三五九五號照會吳
海軍工廠に於て軍艦長門進水に付皇
族御差遣ノ件ハ博恭王殿下ヲ被差
遣...

課文
長書



8.10.31
官房受領



0717

進_テ殿下御臨場ノ御都合貴大臣ヨ
中上取成度

(八大)

0718

軍務局



長領参謀長



十月三十日午後十時十分東京電

省副官



電報

長門建水式ニ付 博基王殿下 即美道ノ上 即決決アリク

趣其筋ヨリ 通牒アリ 不取敢

第一報



右 在水交社 加藤長領長官ニ電話ニ其依頼ヨリ發電ス

(明正印刷納)

海軍

0719

大正八年十月十一日起案
起案者
十月十一日發付
發付掛
捺印

本投
R. 10.14
安投

案者捺印
發付後起

綴取二課
10.13

政廳
8.11.13
安投

軍務局長

出

第一課長
第二課長

出

副官

柳

次官

參事官

中

局員

國

資

城

艦政局長

國

第二課長

源

晴

榮

横山

技術本部長

副官

第四部長

洲

山本

新

局部	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技術	造兵	教育	臨建	水路	軍令
官房	十月十日	10/10												
局部														

大正八年十月十一日

大臣

宮内大臣

皇族ノ内差遣ノ件

海軍工廠ニ於テ製造ノ軍艦長門來十一月

號番

官房第三九五號

毎

直

10.14
技四

45

0720

紙 箋 附

11



第四部長
副官

大臣

所大匠
 左遣う
 カテ製造ノ軍艦長門來十一月

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技術	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部	官辦	發月日
										2. / 3		/	十月十日			
													0 / 0			

政權
8.11.13
受檢

0720

10-14
技四

附 錄 紙

大正八年十月十日

海軍省軍務局

本^作の長カヲ述ルセヌニハ
元裁傍ニ上ガ付ノ下

九月連水セメシ小ニ詠テ南日白詠ノ由ヲ
ヲ作キタル間執奏スル由ヲ申上ル
ナリ

(終)

起案鄧紙

大正八年十一月一日

日起案

起案者
捺印

大正八年十一月三日

日發付

發付掛
捺印

住本

發付後起
案者捺印

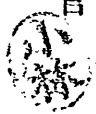
軍務局長



第一課長



副官



局員



官



參事官



電報

大正八年十一月三日

吳鎮長友木

大尾

十一月三日 午後十一時十五分 日 濟

本夕乃軍務局長門進付及以東富沙友リ是海

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關政	人事	軍務	官房	局、部、官房受
												十二月三日	發月日

0723

軍工廠、工場をもち、通商アリタリ

(終)

軍務局

度 第九二四號

大正八年十月二十九日

東宮大易爵濱尾

海軍大臣加藤友三郎殿

通牒

第三課 東宮武官及川古志郎

石来十一月九日軍艦進水式舉行

二付号海軍工廠、被差遣候

追戸園係、向、傳達方可然御取計

相成度候

官房第三八號

新東宮

軍務局受

0725

8.10.30

吳鎮第一四三九ノ一二

大正八年十一月四日

吳鎮守府司令長官代理

第一課

海軍中將 小栗孝三郎

海軍大臣 加藤友三郎殿

軍務局

郵政局

軍艦長門命名式次第書ニ關スル件

大正八年十一月九日午前十時三

十分三十一分 軍艦長門ヲ進水セシメラルル

件 客月十一日官房第三六〇六號ヲ

以テ傳達相成候ニ付其ノ進水

次第ヲ左ノ通定ム

右報告ス

0726

軍務局 11.6

11.7

3.117

一、司令長官ハ工廠長ノ報告ヲ得進水準備ノ整頓ヲ海軍大臣ニ報告ス

二、司令長官ハ海軍大臣ヨリ進水命令書受領ノ後直ニ工廠長ニ進水ヲ命ス工廠長ハ造船部長ヲ經進水主任ヲシテ順次左記ニ依リ進水作業ヲ實施セシム

第一回號進水作業

進水用意
關係各員ハ其ノ部署ニ就ク

（進水作業）

0727

第二回號笛

進水用意整頓

進水主任ハ造船部長ヲ

經テ用意整頓ヲ工廠

長ニ報告シ工廠長ハ前

部繫索ヲ切斷ス

繫索切斷終

港務部長ハ船渠外ニ船

體ヲ進行セシム

軍樂隊ハ船體進行ヲ始

ムルト全時ニ奏樂ヲ始メ

船體全ク船渠外ニ出テ

タル時奏樂ヲ止ム

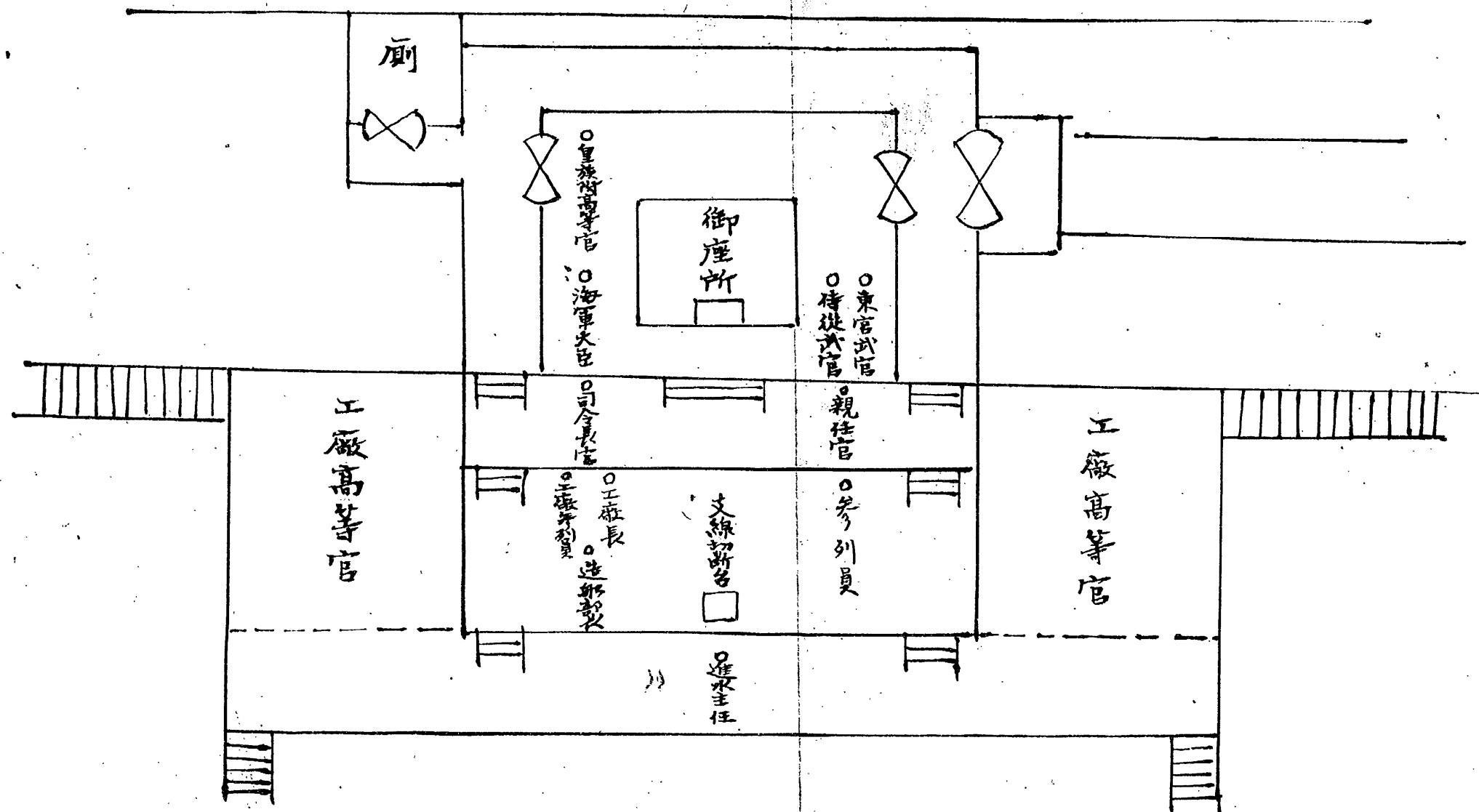
三、船體全ク船渠外ニ出テタル時ハ

工廠長ハ之ヲ司令長官ニ司令長官
ハ海軍大臣ニ報告ス

(終)

(終永井清)

0729



0730

軍務局

吳鎮第一五二號

來十一月九日午前十時三十分軍艦長門命名式舉行セシメラレ
伏見宮博恭王殿下ヲ被差遣旨御沙汰被爲在當日ノ諸次第別紙ノ
通定ム

大正八年十月五日

吳鎮守府司令長官代理

海軍中將 小栗孝三郎

0731

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

軍艦長門命名式次第

御 着 車

一、伏見宮博恭王殿下十一月九日午前五時五十八分吳驛御着直ニ御旅館(澤原邸)ニ成ラセラル(御微行)
鎮守府司令長官御先導幕僚扈從ス

伺 候 式

二、部内高等官ハ九日午前八時ヨリ午後一時迄ノ間ニ於テ御旅館ニ奉伺スヘシ(官爵氏名ヲ記セル名刺持參)

御 臨 場

三、殿下九日午前十時御旅館御發第一上陸場ヨリ御乘艇工廠御召棧橋ニ御上陸式場ヘ成ラセラル

軍港堺川門御通過ノ際ヨリ式後全門御通過ノ際迄ヲ公式トシ其ノ他ハ御微行ニ被爲在

四、儀仗兵及無銃隊ノ編制ハ別表ニ依ル

五、鎮守府幕僚、麾下勅任官、各廳長及儀仗隊並無銃隊ハ午前九時四十五分迄ニ別圖第一ノ位置ニ於テ、式場參列諸官及麾下以

外勅任官以上ハ工廠御召棧橋附近ニ、其ノ他ノ文武官ハ拜觀席ニ在リテ奉迎スヘシ

六、海上供奉序列左ノ如シ

御先導艇

御召艇

供奉艇

供奉艇

供奉艇

防備隊司令

大臣 臣 御陪乘

宮内官 參謀長 僚

奉迎諸官

奉迎諸官

御召艇ノ指揮ヲ海軍少佐朝枝俊三ニ指定ス

七、御召艇第一上陸場棧橋ヲ離レタルトキ在港各艦船ハ軍艦鞍馬ニ倣ヒ皇禮砲ヲ發シ海軍禮式令第六十五條(驅逐艦、潜水艦、水

雷艇ハ全第九十三條)ノ敬禮ヲ行フヘシ

八、殿下御發着ノ際陸上御道筋ハ鎮守府司令長官御先導幕僚扈從ス

九、儀仗衛兵ハ當日午前九時三十分迄ニ工廠御召棧橋ヨリ工廠内御道筋及御座所附近ニ配備ヲ完了シ御警衛ニ任スヘシ

0732

命名式場

- 一〇、工廠長ハ進水準備整頓セハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告ス
- 二、海軍大臣進水命令書朗讀終テ之ヲ鎮守府司令長官ニ授ク
- 鎮守府司令長官ハ工廠長ニ進水ヲ命ス
- 三、船體進行ヲ始ムルト同時ニ軍樂隊ハ奏樂ヲナシ船體ノ全ク船渠外ニ出テタル時ヲ以テ進水ヲ終了スルモノトス
- 三、工廠長ハ進水ノ終了ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ式ノ終了ヲ海軍大臣ニ報告ス
- 四、港務部長ハ豫メ繫留場ヲ定メ置キ進水後艦ノ繫留保護ヲ擔任スヘシ

御歸還

- 一五、命名式終了後 殿下御退場御召機橋ヨリ御乗艇第一上陸場ニ御上陸御旅館ニ御歸還アラセラル
- 御先導及海上ノ供奉序列等御臨場ノ際ニ同シ(勅任官及各廳長ノ供奉ヲ除ク)
- 一六、式場參列諸官及麾下以外勅任官以上ハ工廠御召機橋附近ニ、其ノ他ノ文武官ハ拜觀席ニ在リテ奉送スヘシ
- 一七、御召艇工廠御召機橋ヲ離レタルトキ在港各艦船ハ第七號ニ依リ皇禮砲及敬禮ヲ行フヘシ
- 一八、鎮守府幕僚、麾下勅任官、各廳長及儀仗隊並無銃隊ハ附圖第二ノ位置ニ整列奉送スヘシ
- 儀仗隊及無銃隊ハ午前十時三十分迄ニ全位置ニアルヲ要ス

御發車

- 一九、九日午後一時二十八分吳驛御發車御歸還被爲在(御徹行)
- 鎮守府司令長官、同幕僚、各廳長、工廠各部ノ長及高等官三等以上ノ文武官ハ吳驛ニ奉送スヘシ
- 奉送位置別圖第三ノ如シ

滿艦飾

- 二〇、九日午前八時在港艦船ハ滿艦飾(驅逐艦、潜水艦、水雷艇ハ艦飾)ヲ行ヒ御發車後軍艦鞍馬ニ倣ヒ撤去スヘシ

服裝

- 二一、禮裝 滿艦飾撤去後ハ軍裝ニ復ス

雜件

- 二二、第十八號ニ依ル勅任官及各廳長ハ命名式終了後造船船渠側岸壁斜路ヨリ乗艇第一上陸場ニ先行スルモノトス

0733

儀仗兵編制表

海軍大佐 正木 義太

海軍大尉 野中善雄

[illegible][illegible]

儀仗衛兵

職員其ノ他	艦船部隊名	海兵團	防備隊	石見	淺間	千歳	周防	千代田	明石	矢矧
司令兼中隊長 (大尉)										一
小隊長 (中少尉)		一								二
中隊附 上曹										一
中隊 下士										一
小隊 ノ 數		一								二
掌 信 號 兵		二								二

備考

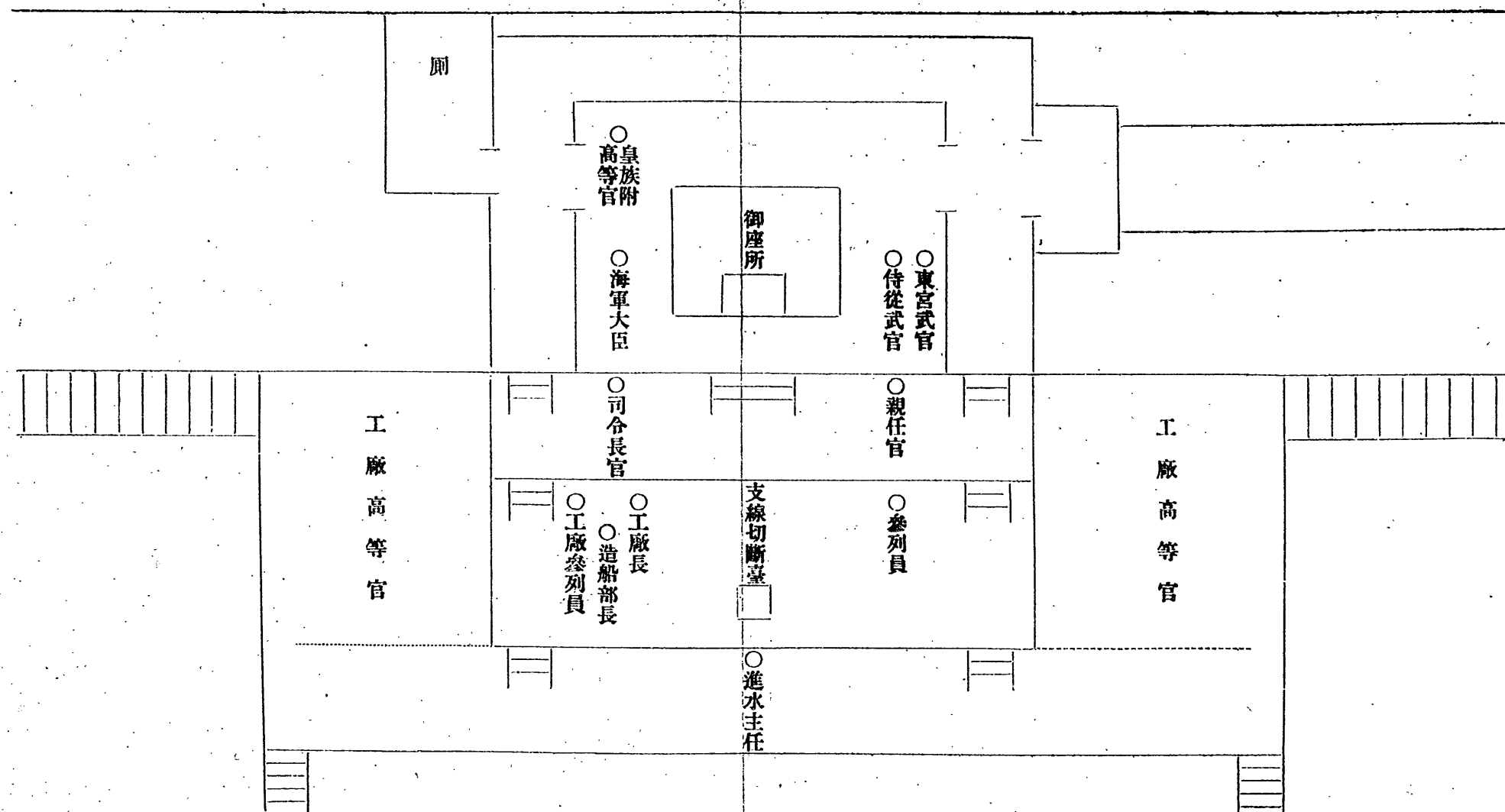
- 一、儀仗隊ハ一大隊(四個中隊)ヲ以テ編制シ三個小隊ヲ一中隊トシ一小隊(四個分隊)ノ伍數ハ十六伍トス
- 一、儀仗衛兵ハ一中隊(三個小隊)ヲ以テ編成シ一小隊(四個分隊)ノ伍數ハ十六伍トス
- 一、儀仗衛兵司令ハ工廠内御道筋及御座所警衛ノコトニ關シテハ工廠副官ト協議スヘシ

無銃隊

指揮官 海軍少佐 遠山彦次

- 一、各艦船部隊兵員ノ約半數ヲ以テ編制シ各部ヨリ准士官以上ノ引率者ヲ附スヘシ
- 二、迎送位置ニ於ケル部隊區分ハ無銃隊指揮官ノ定ムル所ニ依ル

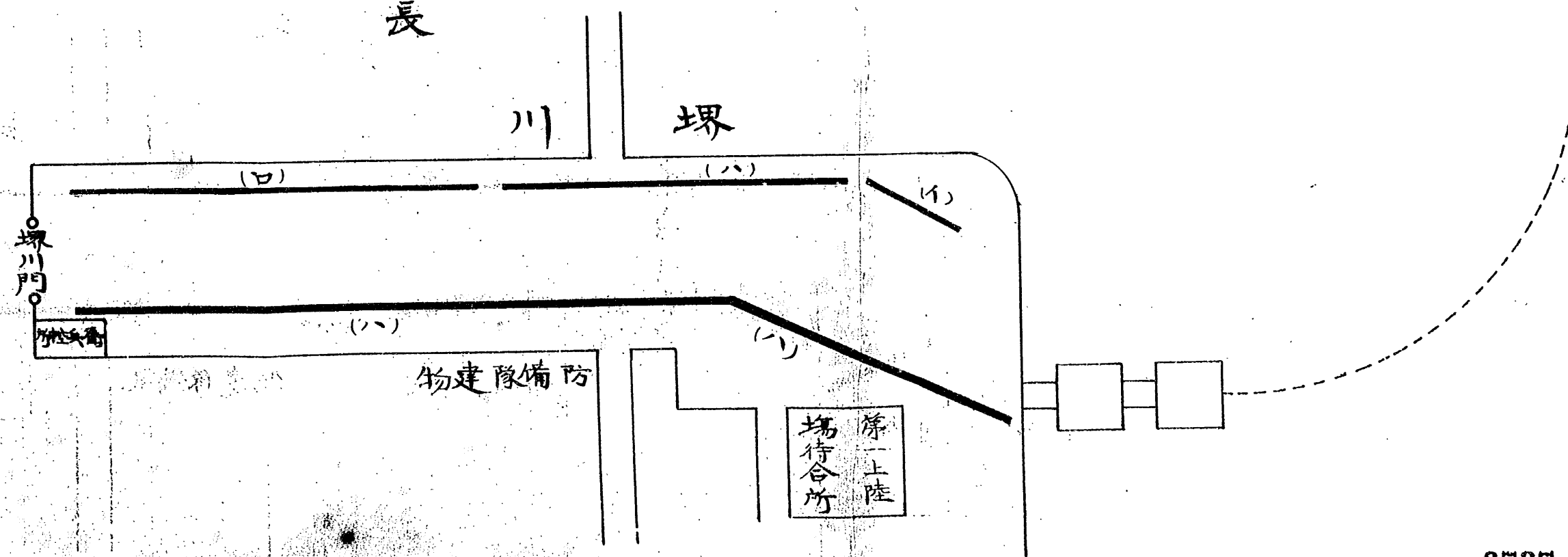
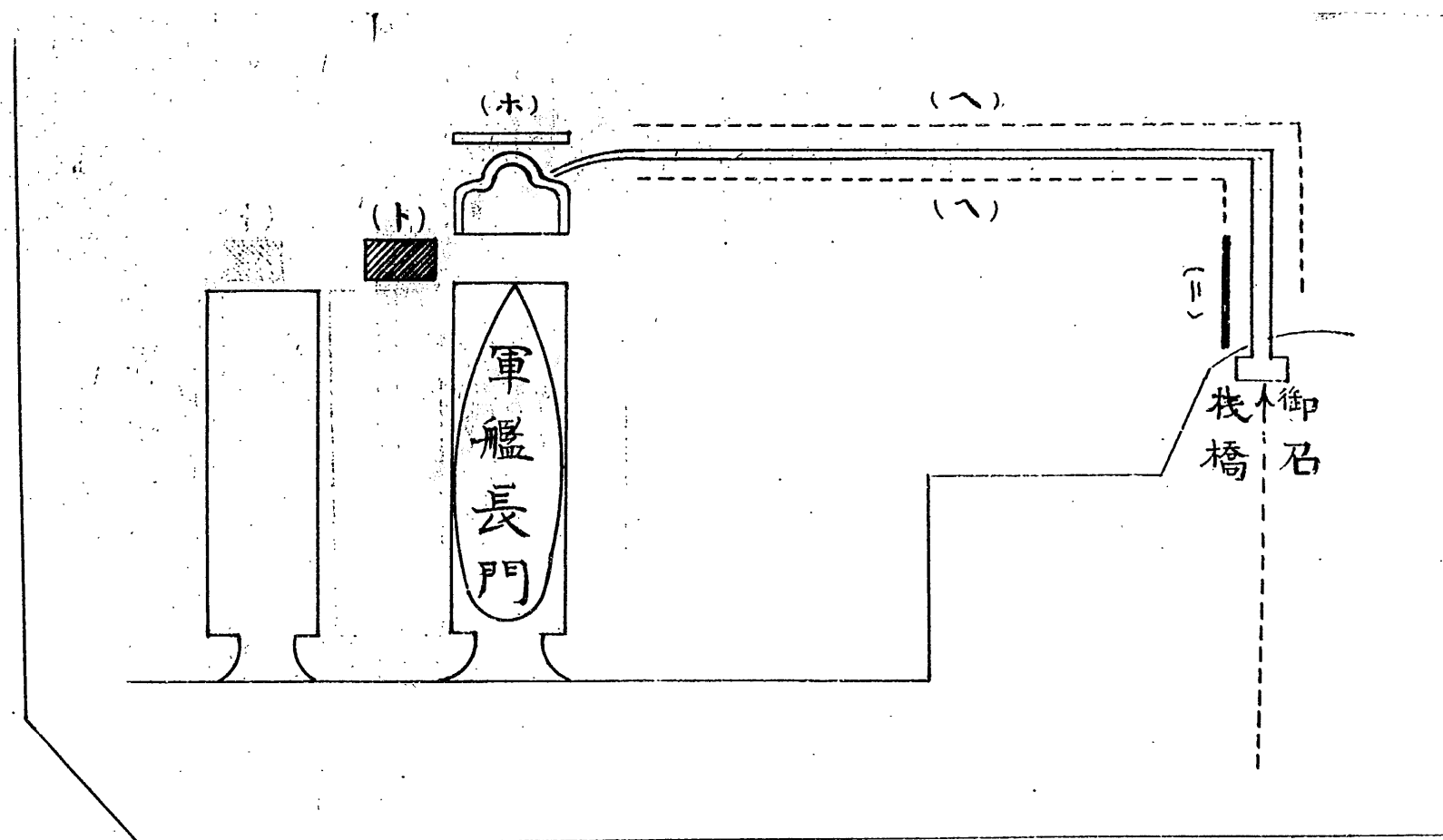
0735



0736

(別圖第一)
奉迎位置圖

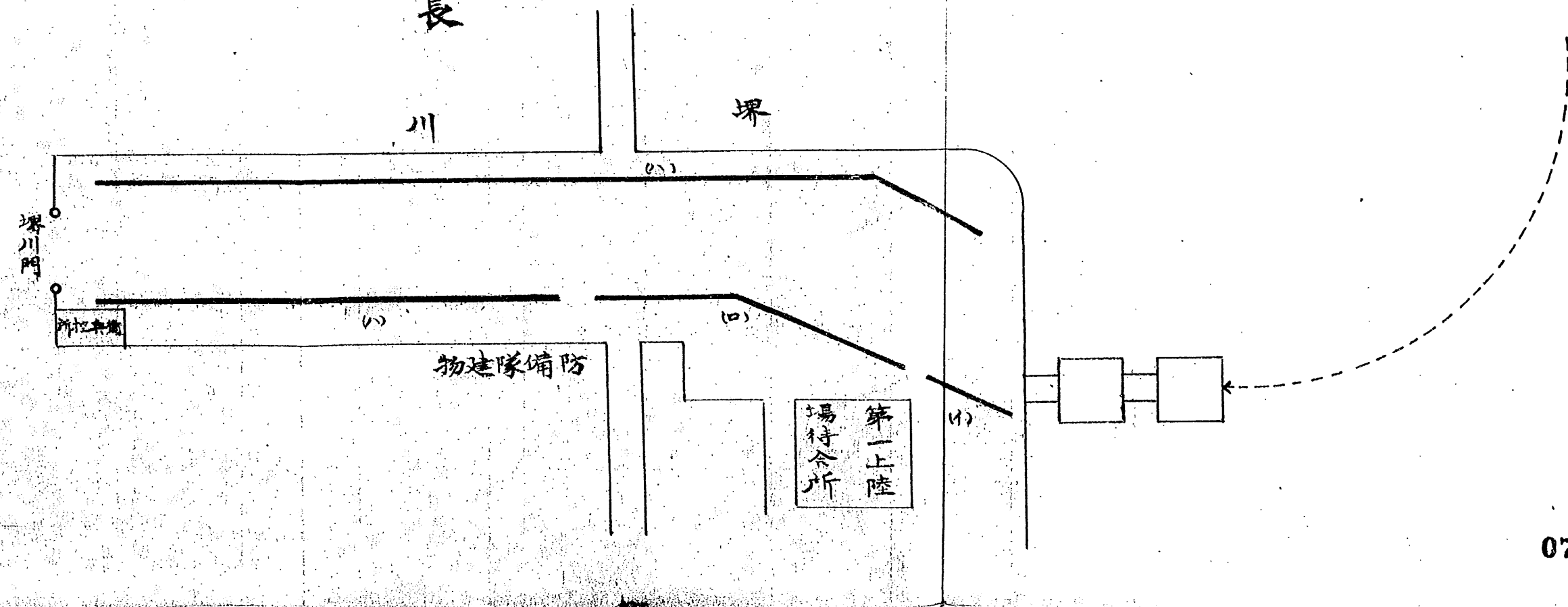
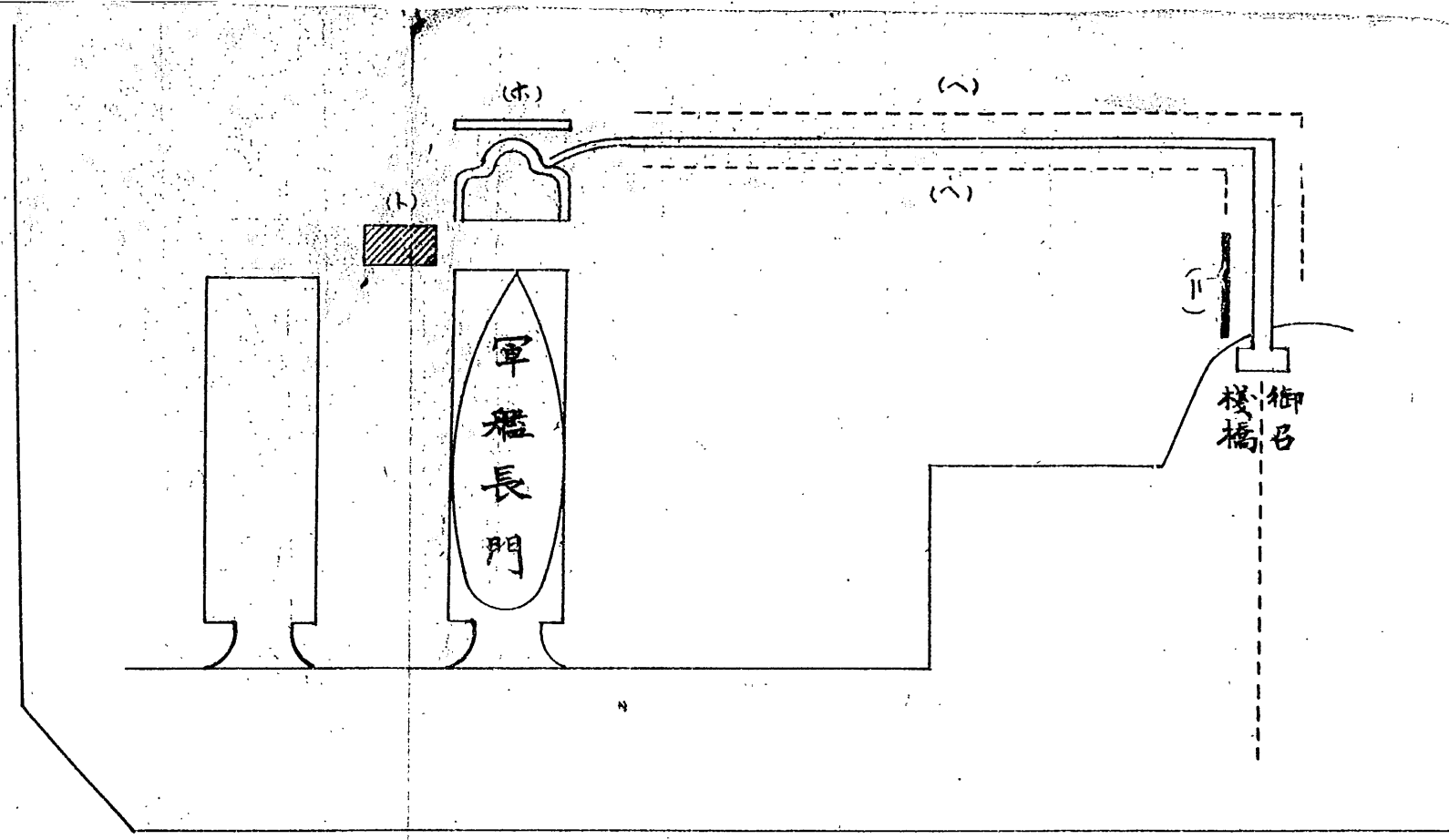
(イ) 鎮守府幕僚麾下勅任官各廳長
(ロ) 儀仗隊
(ハ) 無銃隊
(ニ) 式場參列諸官其他勅任官以上
(ホ) 儀仗衛兵一小隊(密集隊)
(ヘ) 儀仗衛兵(適宜間隔一列横隊)
(ト) 軍樂隊



0737

(別圖第二)
奉送位置圖

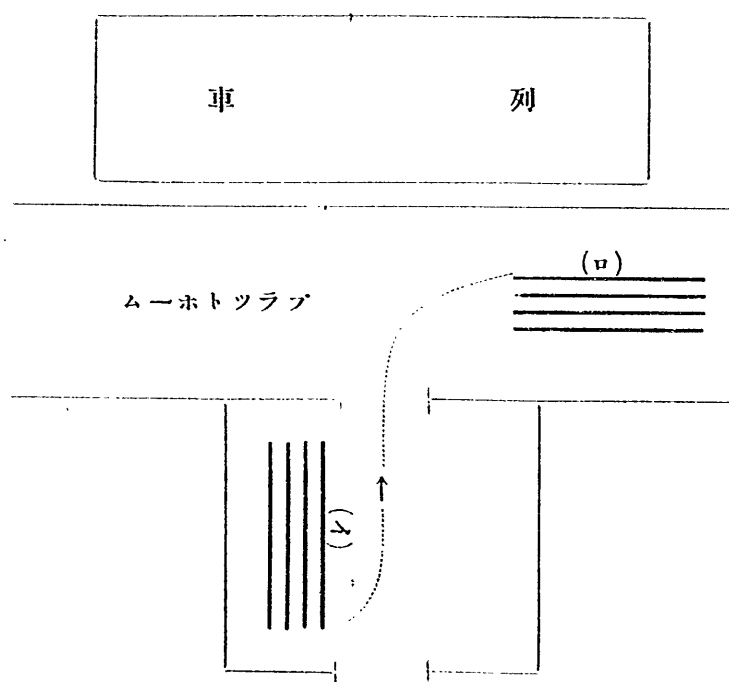
(イ) 鎮守府幕僚麾下勅任官各廳長
(ロ) 儀仗隊
(ハ) 無銃隊
(ニ) 式場参列諸官其他勅任官以上
(ホ) 儀仗衛兵一小隊(密集隊)
(ヘ) 儀仗衛兵(適宜間隔一列横隊)
(ト) 軍樂隊



0738

(別圖第三)

吳驛御發ノ際奉送位置



(ロ)(イ)

御着ノ際
御發車ノ際

0739

軍艦長門命名式當日一般心得

一、拜觀者ハ十一月九日午前十時迄ニ式場内相當席ニ着席ノコト

二、海軍軍人(艦船部隊勤務ノ下士卒ヲ除ク)及部内文官ニシテ制服着用者ハ臂章ヲ附セルモノ並招待狀又ハ拜觀券ヲ有スルモノニアラサレハ命名式場ニ入ルコトヲ得ス

家族同伴者ハ家族ニ對スル相當ノ拜觀券ヲ要ス

七歳未満ノ小兒及扶助ヲ要スル老人ハ入門ヲ許可セス

三、艦船ノ下士卒傭人ハ其ノ艦船ニ於テ、海兵團、防備隊ノ下士卒傭人ハ石見、駒橋ニ於テ拜觀ノコト

四、招待狀並白色及綠色拜觀券ヲ有スル者ハ第二門(水交支社裏)ヲ入り鎮守府前通行工廠東門ヨリ入場ノコト

立食場入場券持參ノ向ニハ工廠入口ニ於テ接待委員ヨリ之ト引換ニ徽章ヲ交附ス

五、櫛色及團體拜觀券ヲ有スル者ハ第一門ヲ入り港務部前通行工廠北門ヨリ入場ノコト

六、拜觀者ハ午前七時三十分ヨリ全九時四十五分ニ至ル間ニ於テ入門スルコト

七、拜觀者ノ出入口及出退場ノ通路ハ混雜ヲ避クル爲拜觀券ノ色別ニ依リ區分ス

八、拜觀席ノ區分左ノ如シ(別圖參照)

(イ) 部内高等官並招待狀及白色券拜觀席

(ロ) 全右婦人席

(ハ) 部内判任官及綠色券拜觀席

(ニ) 工廠雇員、工手、職手、組長
其ノ他指定ノ者拜觀席

(ホ) 團體拜觀席

(ト) 櫛色券拜觀席

0740

九、式後來賓及部内高等官ハ接待掛ノ案内ニテ立食場ニ參集ノコト

一〇、工廠内ニ於テハ休憩所以外ニ於テ喫煙スルコトヲ得ス

二、工廠内ニ臨時救護所ヲ設ケ赤十字旗ヲ掲揚ス

三、各委員及委員附識別章左ノ如シ

紫色 徽章ヲ左胸部ニ附ス 事務委員及委員附

赤色 全 構内式場拜觀所取締委員及委員附

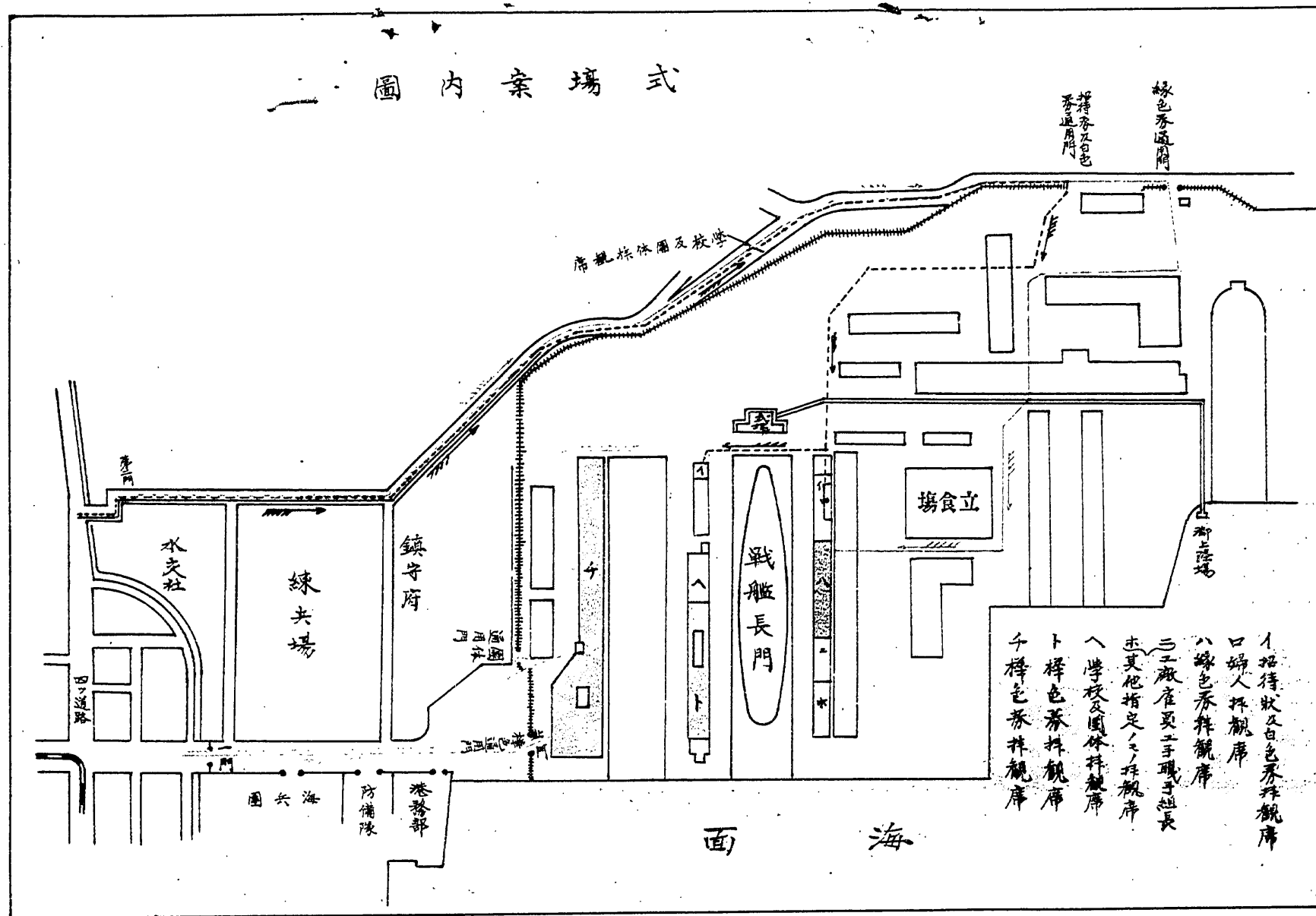
黃色 全 設備及裝飾委員及委員附

青色 全 食堂設備委員及委員附

白色 全 接待委員及委員附

赤十字章ヲ左腕ニ纏フ 救護委員及委員附

0741



0742

軍務局

東坡先生集

雙周粉單
8.11.10

宮

紙

軍務信

着

報

供電

局	着	局	發	第	局	官報
受信	付午後	付午後	付午後	二	九	
	時13分	時13分	時13分	月	日	
				號		

名氏所居人信

（電報）

博恭王殿下午後一時
ニハ分 皇驛御参車
アラセラル
（東京一后 〇五二）
皇鎮府司令長官

番着	紙	名氏所居人信
信	第一	
號	五	
	號	
事記		
印附日信着		

0744

8.11.10



青北
卷之十一
續編
卷之十一

<http://www.jacar.go.jp/>

編修

電報着信紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受 付 午後 午前	受 付 午後 午前	第 二	局 報	官 報		
	分	分	日 號	局 報			
長門命案招待者ニ関スル 件至急何分所由承知 出鎮守府別取					定 指		
					事 記		
ナロ、 イ、 ヤ、 ニ、 カ、 ス、 ル、 エ、					番着 號信	數紙	
					第三 一 號	名氏所居人信發	
印附 日信着					印附 日信着		
					印附 日信着		

0746

副官

編修

大正八年九月三十日

海軍省副官小林躋造殿

吳鎮守府副官杉本幸



長門進水式招待者ニ関スル件

來十一月進水セシラルヘキ長門進水式
當日招待スヘキ人員種類等ハ大體ニ
於テ扶桑進水式舉行ノ際ト全様ノ
範圍ニテ差支ナカルヘシト被存候得共何
分ノ義御内示相成度

0747

右照會ス

追テ前例ニ依ル案ノ大體ハ左記ノ通ニ付
爲念附記致置候

左記

内閣總理大臣

書記官長

法制局長官

秘書官

大臣礼遇

各省大臣

次官

0748

秘書官

副官

元帥、軍事參議官及副官

樞密院顧問官

宮内省

大臣、次官、秘書官、書記官、侍從長

内大臣、秘書官、武部長官、次官

東宮太夫皇太子侍從長侍從武官長皇太子侍從官長

侍從武官、東宮武官長、東宮武官

海軍省

大臣、次官、副官、參事官

0749

軍務、人事、醫務、機關、經理、法務、艦政各局長 分長 、先任局員、	技術本部長、副官、各部長、課長、	艦裝員、部員、	教育本部長、副官、各部長、	工務監	軍令部長、次長、副官、各班長、	各學校長、副官、教頭、	各工廠長、副官、造兵廠長、 小常務長	水路部長	各鎮長官、參謀長、機關長、副官
--	------------------	---------	---------------	-----	-----------------	-------------	-----------------------------------	------	-----------------

0750

各要港部司令官、外令右

各艦隊司令長官、司令官、及幕僚
參謀本部、教育總監部、陸軍省各
部以上及各兵監、軍務局長

憲兵司令官、兵器局長、東京大改砲兵工
廠提理、管区内各師團長及幕僚、

廣島陸軍官憲、長

各帝國大學總長、各科學長

大阪高等工業、京都高等工業、東京

高等工業各學校長、東京商船學校長

管区内各商船學校長

0751

會計検査院長、行政裁判所長官
 鐵道院總裁、副總裁、秘書
 子係監理局長
 製鐵所長官及部長以上
 吳市長、市参事會員、市會議員等
 吳市官公吏、主ナルモノ
 吳市在住各會社支店長、類
 廣島官公吏、學校長等主ナルモノ
 管下各府縣知事、兵事係理事官
 廣島縣下各郡市長
 廣島在住豫後備退役海軍佐官以上及陸

0752

軍將機官

廣島市参事會員、市會議員、縣會

議員、

貴衆兩院議長、副議長、書記官長、

書記官及議員

全國主たる銀行會社、長

東京各國大公使館附海軍武官

全國主たる新聞社長、主筆、

豫備後備軍役、造船、造機、造兵、少將以上

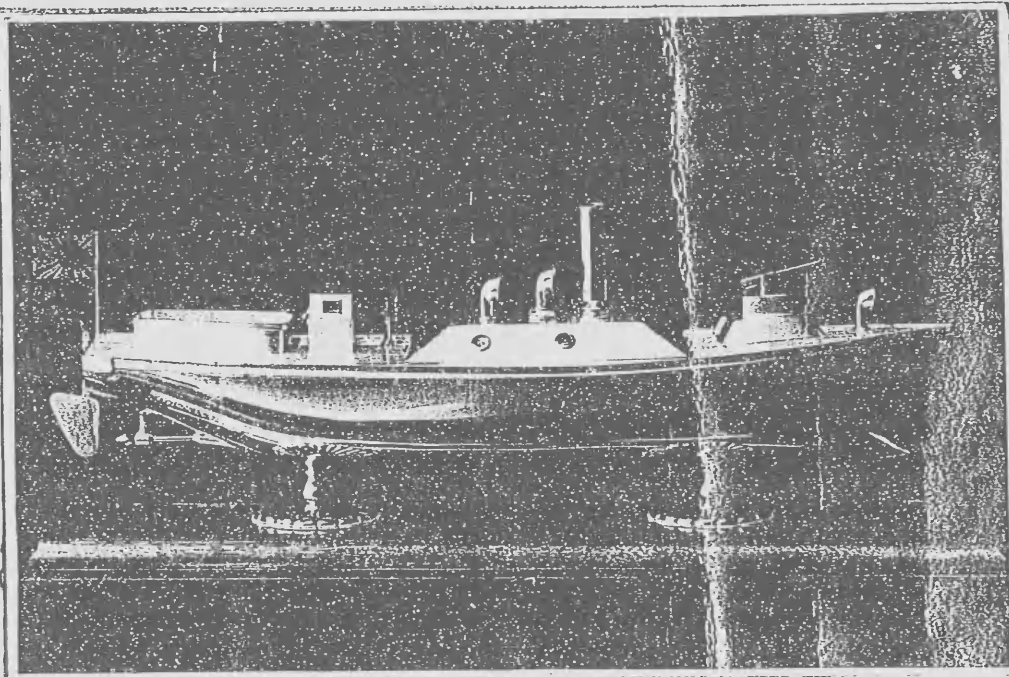
予係アル大學教授

吳、廣島在郷軍人會分會長以上

0753

紀

<http://www.jacar.go.jp/>



丸市也
 新山作
 治印
 作
 1

新山作
 治印
 作
 1

0757

0756

傳
送
式
入
帳
（
海
軍
省
副
官
小
林
躋
造
殿
）

副官

編修

大正八年十月二十八日

吳鎮守府副官小島謙太郎

海軍省副官小林躋造殿

命名式招待者、件

來十一月九日舉行セラルル軍艦長門

命名式、招待者人名別冊、通ニ有

之候間為御参考、

右送付ス

（別冊添）

（終）



海

軍

0758